

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた地域の中で、いかにその人らしい生活を送ってもらえるかを考え、支援する事を理念にしています。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日常的に申し送りやケア方法について振り返る際に理念に触れ、職員間で意識の統一を図っています。また、訪れた人の目に触れるようにエレベーターホールに理念を掲示しています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には訪問時や家族会、地域の方には運営推進会議などで事業所の理念、取り組みについて説明しています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に近所のスーパーに買い物に行ったり、散歩をし、近隣の人達と触れ合えるようにしています。また、利用者の方で近所に職場が一緒だった方がおり、希望があれば会いに行き交流を持ってもらうようにしています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所に近隣の保育園児や小学生が遊びに来たり、地域のお祭りで子ども御輿が訪問してくれるなどの交流があります。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々から認知症や介護認定についての相談を受けています。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めるとともに、前回の評価結果を定例会議で報告し、改善に向けて具体的な実践方法について話し合っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族、自治会、地域包括、民生委員の方に参加していただき、外部評価の結果や近況報告、その他今後の事業所の取り組みや課題について話し合っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の集団指導に参加し、疑問点について直接話を聞く機会を作っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定例会議や勉強会で職員の理解を深めるようにしています。また、職員が順次研修に参加できるようにしています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法のフォーラムに参加して得た内容を、定例会議で報告し、全職員が対応方法について周知するよう徹底しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族の方に契約書や重要事項説明書などの書類を見ていただきながら、時間をかけて丁寧に説明しています。特に利用料金や転倒などのリスク、医療連携体制などについても詳しく説明し、同意を得るようにしています。また、状態変化や共同生活が難しくなり契約解除に至る場合には、家族の方と対応方針を相談しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対して不満や苦情を言っただけの関係づくりに努めながら、利用者の方の言葉や態度からその思いを察することができるように心がけています。また、その時の意見をそのままにせず、ユニットや定例会議で話し合い、解決できるように努力しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた際に事業所での暮らしぶりや健康状態について報告しています。また、状態変化や身辺相談があれば、その都度必要に応じて電話や手紙などで連絡をとるようにしています。家族の方が県外に居られたり、なかなか面会に来られない場合は、広報誌や写真を添えて近況報告をするようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を出入り口に設置したり、面会時には積極的に家族の方と話し、意見や苦情を表せる機会や場をつくるように努めています。また、出された意見や苦情について対応方法を検討し、改善にむけて前向きに取り組むようにしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ、不満や意見を言いやすい環境をつくるようにしています。また、定例会議を月に1回行い、運営や業務内容に関して意見や提案を聞くようにしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれています。また、利用者の方が職員と馴染みの関係を築き、その人らしく安心できる暮らしを支えられるように取り組んでいます。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員によるケアを心がけており、職員の異動や離職を最小限に抑えるように努力しています。職員が交代する場合は利用者の方に対しての影響を考え、余裕をもって引き継ぎができるように配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしています。また、それらの研修報告を、毎月行う定例会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、広報委員として研修会や事例検討会に積極的に参加しています。また、日頃から同業者や他法人と交流・連携をとっており、サービスや職員育成について意見交換を行っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場の人間関係に気を配り、職員のストレスや悩みを把握するよう日頃から話を聞く機会をつくっています。また、他事業所へ見学に行き、交流や親睦の場を持つことでストレスを和らげられるように配慮しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、目標を持って働ける環境づくりに努めています。超過勤務にならないよう必要に応じて業務内容を見直し、心身の健康に配慮して年に2回健康診断を実施しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時には、本人に会って心身や生活状態を把握し、希望や不安などの思いに向き合うことで、安心してもらい信頼関係を築くように努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の方の苦労や今までのサービス利用状況など、これまでの経緯について、家族の方の立場に立ってしっかり聴くようにしています。話を聞き思いを受け止めることで、安心してもらい信頼関係を築けるように努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の方の思い、状況などを確認し、必要なサービスを提案、提供できるようにしています。また、早急な対応が必要な相談者には、他の事業所と連携を取ってサービスにつなげるなどの対応をとっています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と一緒にできるだけ本人にも見学に来ていただき、事業所の案内をして本人の意向を聴くようにしています。利用開始の日時も本人、家族の方に合わせ、安心して納得しながらサービスを利用してもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に本人の立場に立って考えるように意識しながら、生活の中で喜怒哀楽を共有するように努めています。人生の先輩である事を念頭に、お互いに支えあえる関係づくりを大切にし、安心して暮らしていただけるように配慮しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、協力して利用者の方の生活を支えていけるように、日々の暮らしの様子や変化について報告し、共有するようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方、本人の思いや状況を見極めながら、面会の頻度を増やしてもらったり、外出する機会を持ってもらえるように勧め、より良い関係を築いていけるように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人に会いに行ったり、昔から利用している理髪店に続けて通っている利用者の方がおり、今までの生活習慣を続けられるように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士で支え合ったり楽しく過ごしていただけるように、日頃から利用者同士の関係性を全職員が把握・共有し、潤滑油となるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状態が悪化して入院が必要となり退所した利用者の方に定期的に会いに行ったり、必要があれば家族の方の相談にものって関係を大切にするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に相手の立場に立って考えるように心がけており、主体性を大事にしています。直接言葉で表現するのが難しい方は、表情や行動からその真意を推測したり、家族の方や関係者から情報を得るようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に利用者や家族の方から生活歴を聴いて把握し、その人らしい生活が送れるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	先入観にとらわれず、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、その人の残存能力を発揮できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の方から要望を聴き、介護計画に反映させるようにしています。その人らしくより良い生活が送れるように、日頃から職員同士でケアについて意見を出し合うようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、家族の方や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、病気やケガなど、状態が変化した際には、終了する前でも検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量、排泄など身体的状況を記録した介護観察記録と、日々の気づきや会話の内容、出来事を記録した生活記録があり、それを個別のファイルにまとめ、介護計画の見直しや評価に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の方の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の方が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防の訓練に参加したり、ボランティアでキリスト教の話を聞かせてもらっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の方の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、本人や家族の方の希望を聞き、定期的な受診の送迎と付き添いをしており、複数の医療機関と関係を密に結んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居の際に、認知症に詳しい医師の診断を受けています。その後も継続して診てもらっています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師とは医療連携体制にあり、日常的に健康管理や医療面での助言・対応を行ってもらっており、気軽に相談できる関係ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師や連携室職員と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしています。また、家族の方とも情報交換をしながら、スムーズに退院支援ができるように努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う同意書を作成し、グループホームが対応できる範囲の説明を行っています。必要に応じて複数回説明を行う事もあります。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	年々重度化している利用者の方に対して、他職種と連携しながらできる事・できない事を検討しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が失われないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報の提供、交換を行い、少しでも早く環境の変化に馴染めるように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の方に対して自尊心を傷付けないようにふさわしい言葉や態度で接し、日頃から意識して関わるよう心がけています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員が主導するのではなく、主体性を大事に利用者の方に合わせた声かけ・説明をして、本人に選択していただいけるように支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など基本的な1日の流れはありますが、主に本人の好きなように過ごして頂いています。また、買い物や散歩、ドライブなど、一人ひとりの希望に添えるように支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば利用前から通っていた理髪店に行き、パーマやカットをしてもらえるように努めています。また、整容は主に本人の意向にまかせ、自己決定が難しい方には、職員と一緒に考えて本人の思いに添えるように心がけています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者の方と近所のスーパーに買い物に行き、食材を選んだりレジで精算していただいています。調理や盛り付け、片付けなども一緒に行い、同じテーブルで楽しく食事ができるように雰囲気づくりも大切にしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは売店やスーパーに行って、好きな物を選んでいただいています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導をする事で、オムツの使用やトイレの失敗を減らすようにしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に合わせて無理なく入っていただくようにしています。基本的に職員の配置が多い昼間に行っているのですが、希望があれば夜間にも入っていただけるよう柔軟に対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や体操、家事や趣味など活動を促し、夜間よく眠れるように努めています。夜間眠れない時は、添い寝したり、温かい飲み物を飲みながら話をするなど安心して眠れるように配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お正月には餅をついて一緒に丸めてもらったり、漬け物作りなど楽しみごとを利用者の方と相談しながら行っています。また、本人が得意な事や興味のある事に自らすすんで触れてもらえるよう、さりげなく支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の方の意向に合わせ、お小遣いを持っている方がいます。管理が難しい方でも、家族の方の協力を得てこちらで立て替えるようにし、買い物に行き好きな物を買っていただけるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ一人ひとりの希望にそって日常的に買い物やドライブができるように支援しています。地域に知人がいる方や実家がある方など、車や車椅子を利用し、一緒に出掛けるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの思いを大切に、家族の協力も得ながら、お墓参りに行ったり実家に帰るなど、実現に向けて前向きに取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を他の利用者の方に聞こえないような場所に設置したり、地域の小学生からきた年賀状の返事を一緒に書いて出すなど、利用者の希望に応じて、電話や手紙のやり取りが日常的に行えるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方が気軽に来てもらえるような雰囲気づくりを心がけています。面会時間は特に定めておらず、仕事帰りや家族の方の都合のいい時間帯に来ていただけるようお伝えしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議などで「自分が利用者だったら…」という考えのもと、身体拘束を行わない方針を確認しています(点滴中も終わるまで傍に寄り添っています)。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の方が日中好きな時にいつでも外へ出られるように玄関のカギを開け、少しでも閉塞感を減らせられるように努めています。安全にも配慮し、詰所の出入りにセンサーを付け、出て行かれた時には本人の思いを大切にしながらさりげなく声をかけるようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている利用者の方には、定期的に声をかけ、さりげなく安全を確認するようにしています。また、食堂や共用空間にいる職員が、常に見守りを行い、席を外す時には他の職員に声をかけ安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁の保管場所にはカギをかけ、薬は詰所に置いて間違わないよう安全に配慮しています。また、ハサミや裁縫道具などを、ご自分で管理している方については、その方の状況に合わせて必要があれば保管場所を変更させていただくように声をかけさせていただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態や能力を把握し、日頃からひやりはつなどに記録して危険を予測し、事故を回避できるように努めています。また、事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、事故原因を分析・検討して今後の予防について検討しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	院内研修で、応急手当や急変時の対応法を学んでいます。また、実際の対応法を定例会議で報告し、全職員が共有して発生時に備えるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を経て、防災訓練を行い、避難経路の確認、消化器の使い方などを身につけています。また、定例会議でマニュアルを全職員に配布し、火災などを想定して、具体的にどう行動するかを確認するようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑制せず、自由に暮らせる場を大切にしているので、転倒などのリスクがある事を、事前に家族の方に説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃からその日の状況を把握するように努めており、表情や顔色、様子の変化に気をつけています。また、毎日バイタル測定を行い、変化時には記録を残し、状況によっては病院に受診しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、その都度薬剤師に目的や副作用、用法などについて聞き、全職員が把握できるように処方箋をファイルに綴じたり、受診連絡票に残すようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のパターンを把握し、腹部のマッサージをしたり、水分を多く摂っていただき、運動を働きかけることで自然に排便があるように取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っています。また、歯科医師の往診があり、定期的に口腔ケアや指導を受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日介護観察記録に記録し、職員が情報を共有して、好みや献立を工夫し、食が進むように努めています。また、必要に応じてその方に適した食事形態(刻み、ミキサー、とろみなど)にするよう柔軟に対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、講習を受け、細かくマニュアルを作成し、定例会議時に全職員で勉強するようにしています。また、利用者および家族の方に同意をいただき、職員共にインフルエンザの予防接種を受けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理についての講習を受け、マニュアルを全職員に配布し、清潔・安全を心掛けるように努めています。毎日買い物に出掛けて新鮮な食材を使用し、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りを頻繁に点検しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置き、面会に来た方がそこで涼んでいた利用者の方と話をしたり、他の利用者の方を交えて賑やかにお話しされる事があります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の周りが一面田園なので、夏になると青田に集まるしらさぎの群をホールから眺めるなど、季節を感じていただいております。また、家庭的な雰囲気を大切にし、幼稚な装飾は極力控え、家族の方が持って来て下さった花などを飾るようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールに椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげる共用空間があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用時に本人・家族の方に、馴染みの家具や写真など身の回りの物を持ってきていただけるよう説明し、安心して暮らせるように配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を常時回し、定期的に窓を開けて空気の入換えをしています。また、利用者の方に快適な温度となるように利用者の方の状態を見ながら温度調節をするようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて家具の配置を変えたり、段差を少なくするなど、安全で自立した生活をしていただけるように工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室とトイレの扉が似ており見分けがつきにくいので、目印となるように貼紙を貼ったり、取っ手に色の付いたテープを巻いて混乱や失敗を防ぐようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、利用者の方がひなたぼっこしたり散歩した後に休憩ができるように工夫しています。また、花壇には利用者の方が面会でもらった植物などを植え、咲いた花を見るのが楽しみとなっています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

「自分だったらどうだろう」と、その人の思いや気持ちを推測しながら関わる事で、楽しく安心して暮らしていただけるように努めています。利用者や家族の方と信頼関係を築きながら、一人ひとりの個性を大切に、その方のできることを見極めて残存能力を発揮していただけるように支援しています。「生活」について全職員で話し合い、その人らしく生きるために、その人の望む生活を支援しようという意識を持って関わっています。本人や家族の方から生活歴を聞き、自信や生き甲斐に繋がるよう馴染みのあるもの（調理、掃除、趣味など）を生活の中に組み込むようにしています。